

バスケットボールを通じた地域活性化

- B.LEAGUEが描く地域活性化と将来構想

2023.2.27 スポーツ未来開拓会議

Bリーグの歩み/将来構想へ

将来構想による成長の加速により、現CBA・EURO LEAGUEと同水準となる
入場者数500万人・事業規模500億円を目指す。

	2015-16 NBL+bj	2016-17 B.LEAGUE	2017-18 B.LEAGUE	2018-19 B.LEAGUE	2019-20 B.LEAGUE	2020-21 B.LEAGUE	2021-22 B.LEAGUE	2022-23 B.LEAGUE	2023-24 B.LEAGUE	目標
入場者数	162万人	224万人	250万人	259万人	171万人	129万人	158万人	300万人	350万人	500万人
リーグ全体事業規模	90億円	196億円	243億円	265億円	270億円	309億円	354億円	409億円	370億円	500億円
リーグ事業規模	8億円	46億円	48億円	50億円	46億円	67億円	72億円	74億円	74億円	100億円
クラブ事業規模	83億円	150億円	195億円	215億円	224億円	242億円	292億円	335億円	300億円	400億円
クラブ最高売上高	-	11億円	14.3億円	17.6億円	15.8億円	20.4億円	20.9億円	-	20億円	30億円
クラブ平均売上高 (B1)	4億円	6.4億円	8.0億円	9.2億円	9.3億円	9.6億円	10.7億円	-	12.5億円	20億円

現CBA・EURO LEAGUEと同水準



※2022-23は
推定値

B.LEAGUEが目指す姿

TRANSFORMATION

2026年、リーグ構造の大改革を実行

エキスパンション型リーグへの移行

- 事業投資促進のため、
単年競技成績のみによる昇降格廃止
- 今後はクラブライセンスにより事業性で
エキスパンション(クラブ数)を判断



**クラブ経営力向上、事業投資がしやすい環境に
着実な地域創生を実現する**

新B1

地域・日本を代表し、世界と伍する“輝く”リーグ

- ・世界標準の競技力・アリーナエンターテインメント、地域活性の中心
- ・広がる事業成長機会（世界市場・アリーナ・高い賞金等）
- ・世界標準の経営力（20億~30億円の売上、20%以上の利益率・投資力）

B1 ▶ 新B2

地域に根差し、世界と戦う準備をするリーグ

- ・地域において普及・地域活性・社会課題解決ができています
- ・今のB1上位クラブと同等の経営力（8-10億円クラブ）
- ・結果、アリーナや投資の機運を高め、
上への挑戦準備ができています

B2 ▶ 新B3

プロクラブとしての登竜門

- ・プロクラブとして自立できている（経営安定、地域貢献）
- ・クラブビジネスの基盤を築く
（スポンサー、チケットング）
- ・一定の経営力でいつでも上に昇格できる

将来構想実現への3つの成長戦略

入場者数基準
平均：4,000名

事業の基盤

- ・ 単日開催でも会場を満員化でき、収益化できるクラブであること
- ・ チケット収入・スポンサー収入・他バスケ収入の源泉となる基盤がある

**業界発展に向けた
3つの重要指針**

売上基準
売上高：12億円

事業投資力の裏付け

- ・ 収入の源泉である入場者に対してしっかり、収益化できていること
- ・ スタッフ・選手・興行に十分に投資できる状況であること

アリーナ基準

- ・ 新設アリーナ基準充足
- ・ カーディング自由度

成長の基盤

- ・ チケット収入・スポンサー収入を更に上げる“魅せる”アリーナを有している
- ・ 毎日試合が行えるような世界を作るためのアリーナ自由度を持てる

- ・ 上記をB1クラブライセンス基準とする
- ・ B2クラブライセンス基準：売上高4億円・入場者数 2,400人
- ・ 新B1参入審査は 2024年10月予定

夢のアリーナの意義

夢のアリーナを核に様々な人々の笑顔と活力を生み出すこと



バスケット・他スポーツ・コンサートなどの誘致/独自イベント創出
交流/関係人口拡大による地域経済活性

バスケット・他スポーツ・コンサートなど老若男女にとっての聖地
市民のスポーツ文化交流の活性化（心身の健康）

医療・健康・防災・デジタル等の中心としてのアリーナ
地域サービスネットワークの整備促進

アリーナを核にヒト・モノ・サービス・シゴトの成長
雇用創出・Uターン喚起

地域課題解決・SDGs実現のシンボル
住みやすい街の実現促進

夢のアリーナは“夢の都市の実現”“地域のプロフィット”のためのドライバー

将来構想に向けたアリーナ建設の動き

企業版ふるさと納税を活用したスキームや民設民営のアリーナなど、行政、企業を巻き込んだアリーナ計画が各地で進行中

佐賀県佐賀市
2023年開業予定
-SAGA アリーナ-



SAGA

群馬県太田市
2023年完成予定
-OTA ARENA-



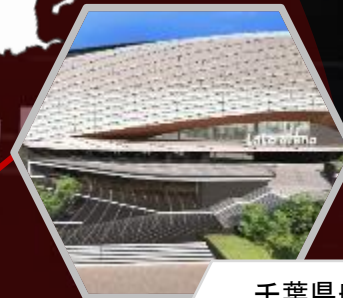
OTA

兵庫県神戸市
2024年完成予定
-西宮ストークス
新アリーナ-



KOBE

千葉県船橋市
2024年開業予定
-ららアリーナ東京ベイ-



FUNABASHI

長崎県長崎市
2024年完成予定
-長崎スタジアム
シティアリーナ-



NAGASAKI

愛知県名古屋市
2025年完成予定
-愛知県新体育館-



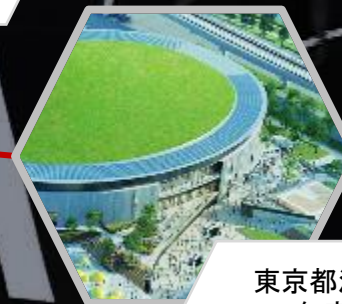
NAGOYA

愛知県名古屋市
2026年完成予定
-FE名古屋新アリーナ-



NAGOYA

東京都江東区
2025年完成予定
-TOKYO A-ARENA-



TOKYO

愛知県安城市
2026年完成予定
-シーホース三河
新アリーナ-



ANJO

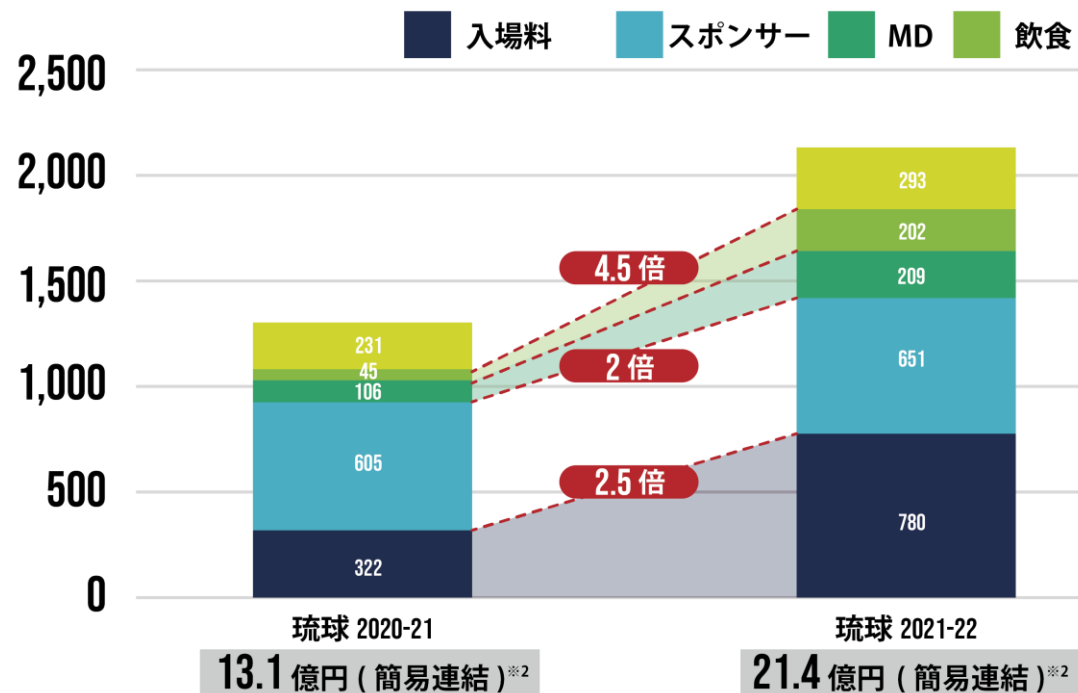


OKINAWA

沖縄アリーナ開業による琉球の財務インパクト

- ・ 沖縄アリーナが開業した琉球は入場料収入だけでなくMD・飲食収入*1も飛躍的に増加
- ・ 夢のアリーナの実現がクラブの成長、ひいては地域創生につながる
- ・ ハード面だけでなく、まちづくりを含めたソフト面でもクラブ・行政一体の協力関係がポイント

琉球財務インパクト



数字サマリ

- 入場料収入：対前年比+142%UP ▶ 約2.5倍
- MD収入：対前年比+97%UP ▶ 約2倍
- 飲食収入：対前年比+348%UP ▶ 約4.5倍

*1 | 飲食事業の収入は子会社の沖縄アリーナに計上されるためその数字を反映 (20-21シーズンの飲食事業収入は沖縄市体育館開催時(クラブ単体)+沖縄アリーナ開催4-6月の3ヵ月分の合計値)

*2 | 入場料収入、MD収入はクラブ単体の数字であるが*1のとおり一部子会社の収入を加算しているため、簡易連結として表現

B.HOPE ACTION

- OFF-COURT 3POINT CHALLENGE -

B.Hopeは3つの領域で、クラブ・選手・ファン・地域・パートナー企業の方々を巻き込んで共にSDGsの実現を目指したアクションを推進

PEOPLE

Diversity Inclusion
SteAM Education



3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



10 人や国の不平等
をなくそう

TEAMMATES PJ -復学支援-

長期療養を必要とする子どもがチームの一員として入団し、練習参加や試合会場でのスタッフサポート等、チーム活動に定期的に参加。こどもとご家族の生活の質が向上することに貢献

障がいを持つ子どもとそのご家族支援

障がいを持つ子どもとご家族を社会全体でサポートし、一緒になってスポーツを楽しめる、スポーツを通じて相互に理解をし、共に手を取り合える社会の実現を目指す活動

バスケットを通じた子供たちへの未来教育プログラム

子供たちがバスケットというスポーツを通じて様々なことに興味を持ってもらう、将来の可能性を感じてもらう活動
EX. プログラミング教室等

PEACE reconstruction support



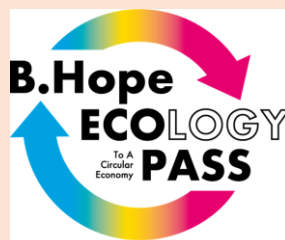
復興支援活動

Bクラブや選手会と共に被災された地域に笑顔を、全国で震災を忘れない、を目標に仮設住宅訪問、バスケットクリニック、街づくりサポート、防災バスケットなどを毎年実施



11 住み続けられる
まちづくりを

Planet Circular economy



B.Hope Ecology Pass (エコパス)

衣類の回収、再生、新たにクラブの応援グッズに生まれ変わる活動を通じてサーキュラーエコノミーの実現に寄与
"みんなのバスが、バスケットを元気に。地球も元気に。"



12 つくる責任
つかう責任

B.LEAGUE
Hope



REMOTE COACHING WITH SoftBank

-離島の子供たちに質の高い教育と夢を持つ機会の提供-

社会課題

- 日本国内の有人島数は約400島、約40万人が在住
- 離島生活には様々なハンディキャップが存在。スポーツでも、指導者や練習相手がない、中学までしか学校がない等が子供たちの夢と機会を持ちづらい環境
- コロナ禍により、その課題はより深刻に

バスケのチカラ

- 質の高い指導力
- 子どもたちの目標となる機会（プロ選手と同じ舞台に立てる）

SoftBank

- スマートコーチング
- VR技術

パートナーのチカラ

4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



17 パートナーシップで目標を達成しよう



B.Hopeの挑戦

VRドリル



伊江中学校バスケット部員



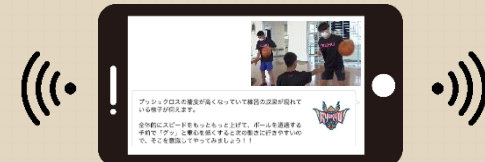
琉球ゴールデンキングス
岸本選手
並里選手▼



スマートコーチ



琉球ゴールデンキングスU18
与那嶺HC



伊江中学校バスケット部員

そして、沖縄アリーナの大舞台で成果を発表！

国際成長戦略

・アジア枠導入(仕組化)し今後拡大していくとともに、事業化を推進

	アクション	実績
ネットワーク構築	リーグ間連携推進	NBA,フィリピン、台湾、韓国等 リーグトップと協力関係を構築
制度設計	アジア特別枠を導入 (2020-21シーズンより)	当初2名からスタートし、 現在は4か国17名の選手獲得
事業構築	YouTube、SNSのPF構築 放映権販売	放映権販売実現

各クラブによるアジア枠拡大によるファンベース拡大しながら、
リーグクラブともに【早期事業化】を目指す

国・自治体への要望

・本委員会を活用させていただき、要望させていただきたいのは下記の項目

街づくり/施設整備	✓ 「アリーナ活用による地域課題解決」の意識共有、事例蓄積 ✓ 民間事業者が活用可能なアリーナ整備助成メニュー拡充
社会連携	✓ リーグ・クラブのSDGs活動支援。国・自治体の普及活動との連携 ✓ 運動部活動とクラブの連携方策の拡大 ✓ アウェイツーリズムの展開による地域活性化へのサポート
海外展開	✓ リーグ間交流の促進（外交ルートとの連携・国家間覚書による交流活性化） ✓ 海外市場調査、ネットワーキングイベント開催による海外スポンサー獲得支援
DX/コンテンツ拡充	✓ リーグ業務のDX導入・効率化支援 ✓ コンテンツ制作の高度化・多様化のサポート（映像・SNS発信等）
人材育成	✓ プロ審判/プロオフィシャル導入支援（「支える」のプロ化支援） ✓ プロフェッショナル副業活用支援

バスケで日本を元気にするために

世界に通用する
クラブ・選手の輩出



夢のアリーナ




**ENERGIZING JAPAN
WITH
BASKETBALL**
#バスケで日本を元気に！

エンターテインメント性
の追求



THANK YOU.